

11月のブルーベリー農園

夏のブルーベリーの実の摘み取りでは安芸の郷の支援をして頂いている方々や利用者、職員、農園の友

人、知人の援農で事故もなく収穫の喜びを共有させていただいた。そして、たくさんの実を安芸の郷に納品することができた。晩秋のブルーベリーはマツダスタジアム並みに赤く染まっている。



11月も中旬に入り、ブルーベリーは様相を一変させて一気に紅葉を始めた。今年は少し早いようだ。



列の間隔は 2.5mある。ブルーベリーの紅葉のトンネル。以前、収穫の時期に安芸の郷の職員がちいさな子どもを連れてきたことがあり、その子がブルーベリーのこの通路を走って行ったり来たりして遊んでいたことがあった。アニメ「となりのトトロ」に出てくる妹のメイがトトロを追いかけて森のトンネルをかけていくシーンが思い出された。宮崎駿監督の目の付け所はすごいなと思ったものだ。



畑から農園の家を望む。



紅葉に染まりながらも農作業を行う。毎年この時期にもみ殻をブルーベリーの木の下に敷き詰めるので近所の農家から頂いたもみ殻を袋詰めにして畑の中に運ぶ。今日で運搬は終わったので次は木の下にまく作業が待っている。無灌水栽培なのでもみ殻が水分蒸発を防いでくれる。



逆に農園の家の庭からサザンカ越しにブルーベリー畑を望む。



運搬中なぜか赤とんぼがとまりに来る。畑に起きてある袋に数匹とまりにくる。中にはビニール袋で足を滑らせながらとまろうとするトンボもいてつい微笑んでしまう。



ブルーベリーの畑に1本だけムラサキシキブが生えている。落葉したあとの晩夏の実の色は少し銀色をおびてどこかすごみがある。



ブルーベリーの花芽がずいぶん膨らんできた。このひとつの芽から花が前に押し出すように10個くらい咲く。だから結実すると10個くらいの実が実ることになる。

ところでブルーベリーの紅葉は主としてアントシアニン色素によるものだが「紅葉は、紅葉の後に続く落葉に備えて、葉内の栄養分、糖類や無機成分を枝に転流した後の状態ともいえます」そして「落葉は一種の生理現象で、やがて来る冬季の厳しい低温から枝や芽を守るための準備です」(ブルーベリーの観察と育て方より: 玉田孝人、福田俊共著、創森社より)。きっちり順番にそって季節を刻んでいくところが偉い、と思ってしまう。



無造作に束ねて咲かす隣の農家の畑の菊が満開。



9月に稲刈りが終わった田んぼ。このまま冬を越す。

2018年11月21日
社会福祉法人安芸の郷
理事長 遊川和良